

2024年6月10日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

お盆行事についてのお知らせのご案内

梅雨明けが待ち遠しいこの頃、門信徒の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。

今年もお盆の準備を始める時期になりました。以下の通り、参詣のご案内を致します。一緒に、精一杯のご供養を致しましょう。

つきましては、参拝の際のマスク着用を推奨するとともに、発熱等の体調不良な方等の参拝は禁止します。

記

1. 初盆者初盆法要

と き 令和6年8月13日(火) 14日(水)

初盆の御家庭に、日程調整など、別途お寺よりご案内致します。

基本的に2家族一緒頂いてのお勤めにはなりますが、日頃のご法事の形態で、本堂で勤修致します。

2. 潮見寺門信徒合同盆法要

と き 令和6年8月14日(水) 午前11時30分～12時10分

おつとめ 仏説観無量寿経作法

初盆以外の方々にとっても、私共の先祖にとっても、お盆は大切な仏事です。

3. 納骨堂法要・総会

と き 令和6年8月13日(火) 9時～

●9時から：願成閣(上) → 願成閣(下) → 第二願成閣 * 讃仏偈

●9時20分頃から：本堂 * 阿弥陀経 → 法話

「お盆前寺掃除」

- 対象：寺役員と願成閣加入者、初盆者、その他ご協力いただける門信徒
- と き：8月10日(土) 午前8時から
- 内容(ご無理のない範囲でご参加ください)
 - ✓ 寺役員・初盆者、その他ご協力くださる門信徒の皆さん "本堂・庭掃除"
 - ✓ 願成閣加入者 "閣内掃除"

伝道

「ご命日」という言葉をあらためて考え直してみますと、文字にすれば「いのちの日」と書きます。ある特定の人命が尽きた日であるということ、つまり亡くなった人が命を終えたその日、亡くなった人を憶念する日だと、そういう私たちが普段から領解している意味合いだけではないように思うのです。つまり、「いのちの日」ということは、まさに亡くなっていかれた方の死をとおして、その人が生きてこられた人生というものをとおして、その人と関わりをもって生きてきた自分自身が今こうして生きていることを、このいのちというものをあらためて考え直してみる、問い直してみる日であるということも言えるのではないかと思います。つまり、自分自身と何らかの形で関わりをもって生きてきた、その亡くなった方の人生をとおして、今こうして生きている自分自身の生き様をあらためて見つめてみる、そういう日でもあるのではないかと思います。

そのことで少し考えてみますと、以前葬儀を勤めておりました際に、心に響いた弔辞に出会うことができました。亡くなった小学生時代の恩師の先生に対して、その教え子さんからの弔辞でありました。その教え子さんは、成人して学校の教師となり、恩師の先生ともずっと親交を続けておられたそうです。恩師の先生が生きておられた時のことから始められて、自分の人生において非常に苦しく困難な状況に置かれた時、その先生のことを想起することで、そのことが心の支えとなり、それによって勇気づけられることがたびたびあったと。そして、「こうして先生が亡くなられた今、これからも、私の中では先生は生き続けておられて私を見てくださっています。ですから私は、あえて「さようなら」というお別れの言葉は申しあげません。それよりもむしろ、「ありがとうございました」とお礼の言葉を申しあげたいのです」と。そのような内容でありました。何かそこには、私のほうから死者の方へ向けている眼差しばかりでなく、それとは反対に死者の側から、この私自身に向けられている眼差しを感じ取り、受け止めていこうとする姿勢があると思います。

私の世代からすれば私の祖父母の世代位までの人たちは、日常の生活の中で、ごく自然に「仏さまが見ておられる」というような言葉を使われていたかと思っています。この言葉は、人は亡くなったら仏さまに成られる。そしてまさに死者の側からの眼差しを感じ取って、自分自身を見つめてきたということから出てきた言葉ではないかと思っています。「亡くなった人は居なくなってしまったのでないのだよ。眼には見えないけれどもいつもそばに居る。見守ってくださっているのだよ」

この「ご命日」、「いのちの日」という言葉は、自分自身と何らかの形で関わりをもって生きてこられた、その亡くなった方の人生というものをとおして、その方の眼差しに出会い、今こうして生きている自分自身の生き様を見つめてみる。そういう感覚を呼び起こす、そんな意味合いを含んでいる言葉ではないかと思っています。

(僧侶 31 人のぽけっと法話集「ご命日」木戸尚志)

